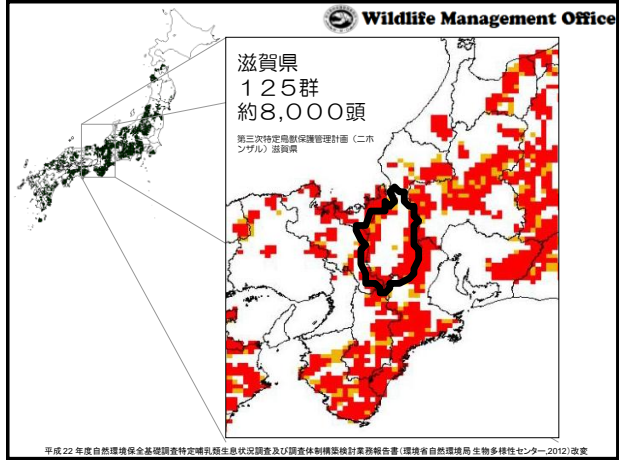


Wildlife Management Office

保護管理の事例 I

-計画的な個体数管理- 滋賀県

株式会社野生動物保護管理事務所
主任研究員 清野紘典



Wildlife Management Office

滋賀県サル個体数管理のポイント

- 👉 **許可権限**
 - ①有害鳥獣捕獲(群れ個体数10%まで) → 市町
 - ②個体数調整(群れ個体数10%以上) → 県
- 👉 **モニタリング**
サル出没カレンダー調査, テレメトリー調査等
- 👉 **スキーム整備**
特定計画に実施要件, 実施フロー, 役割分担等を明記
- 👉 **総合的被害防除の推進**
被害管理・生息地管理が個体数管理と連動

Wildlife Management Office

サル出没カレンダー調査とは？

一定期間, 一斉に広域でサルの出没を記録する日誌調査

Wildlife Management Office

サル出没カレンダー調査 アウトプット

- 👉 群れ分布
- 👉 群れ数
- 👉 加害レベル
- 👉 個体数

広域サル生息状況を低コストで効率的にモニタリング

Wildlife Management Office

モニタリング結果 第三次特定計画

市町	群れ名	出現回数 のレベル	調査票の 枚数	サルの 様子	加害 レベル	個体数 推定	備考		
大津市	大津A	7	7	1	1	423			
大津市	大津B	5	4	8	2	30	H23		
大津市	大津C	6	5	7	6	4	30	H23	
大津市	大津D	9	8	9	2	30	H23		
大津市	大津E	6	5	6	6	1	40	H23	
大津市	大津F	7	7	7	8	7	2	40	H23
大津市	大津G	7	5	6	6	1	35	H23	
大津市	宇治川	6	6	8	2	30	H23		
伊賀市	伊賀A	10	9	10	10	2	102	H21	
伊賀市	伊賀B	10	10	9	10	2	41	H20	
伊賀市	伊賀C	9	9	8	9	1	21	H20	
伊賀市	伊賀D	6	6	5	6	1	40	H20	
伊賀市	伊賀E	5	4	9	6	1	20	H20	
伊賀市	伊賀F	7	6	7	7	1	40	H20	
伊賀市	伊賀G(宇治川)	6	6	8	7	2	30	H21	
伊賀市	宇治川	7	7	7	7	2	40	H20	
伊賀市	土山A	9	8	9	9	5	40	H20	
伊賀市	土山B	6	5	3	4	1	30	H20	
伊賀市	土山C	6	5	7	6	2	30	H20	
伊賀市	土山D	1	1	1	1	1	1	H20	
伊賀市	伊賀H	9	7	7	8	0	30	H21	
伊賀市	伊賀I	6	5	6	6	2	30	H21	
伊賀市	伊賀J	1	1	1	1	1	1	H21	
伊賀市	伊賀K	1	1	1	1	1	1	H21	

第三次特定鳥獣保護管理計画（ニホンザル）滋賀県

Wildlife Management Office

〇〇市地域実施計画（市策定）

＜例＞

📍 〇〇市の現状

群れ	加害レベル	個体数	出没地区	被害状況	調査方法
A群	レベル10	55頭	a地区,b地区	水稲・野菜 金額15,000千円	サル出没カレンダール デレトリー 被害アンケート
B群	レベル8	68頭	c地区,d地区,e地区	果樹 金額5,000千円	
C群	レベル7	110頭	f地区,g地区	水稲・野菜 金額1,000千円	
D群	レベル3	38頭	X	X	

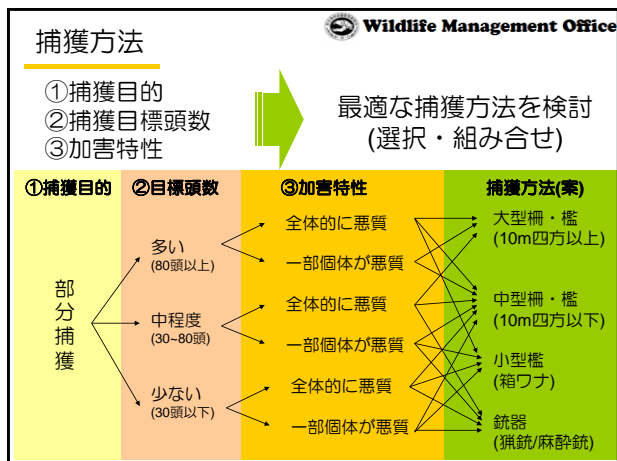
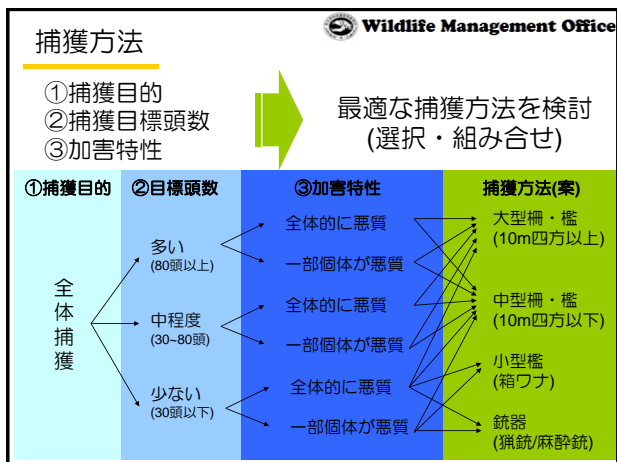
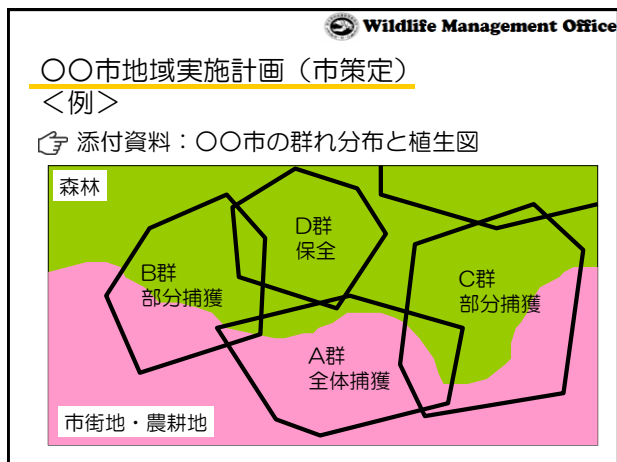
Wildlife Management Office

〇〇市地域実施計画（市策定）

＜例＞

📍 サル管理方針

群れ	保全配慮	個体数調整	生息地設定	被害対策				群れの特性	
				誘引物除去	環境改善	追い払い	防護柵		接近警報
A群	X	全体捕獲	排除	0	0	0	0	被害甚大、対策効果なし	
B群	X	部分捕獲	周辺山地	0	0(予定)	0	0(予定)	数頭の悪質個体が加害	
C群	X	部分捕獲	周辺山地	0	0	0(予定)	0(予定)	個体数が多く対策効果低い	
D群	0	X	奥山	Δ	X	Δ	Δ	X	ハナレザルが時折加害



Wildlife Management Office

個体数調整（～第三次計画：12群）

個体数調整対象	仮名	加害レベル	個体数	捕獲目標頭数	加害特性	捕獲方法	捕獲手法
全体捕獲対象	OE群	9	28	28 (少)	全体が悪質	大型捕獲柵	全体捕獲
	MD群	8	50	50 (中)	全体が悪質	中型檻	
	KD群	10	109	109 (多)	全体が悪質	大型捕獲柵+中型檻	
部分捕獲対象	OE群	9	40	12 (少)	全体が悪質	大型捕獲柵	部分捕獲 (無作為)
	KA群	9	260	130 (多)	全体が悪質	大型捕獲柵+小型檻	
	MA群	7	70	35 (中)	全体が悪質	中型檻	
	MC群	7	130	65 (中)	全体が悪質	中型檻	
	KC群	9	79	25 (少)	部分的に悪質	麻醉銃	選択的捕獲
	YA群	9	60	3群計20 (少)	部分的に悪質	麻醉銃・猟銃	
	YB群	9	31		部分的に悪質	麻醉銃・猟銃	
	KB群	8	33		部分的に悪質	麻醉銃・猟銃+中型檻	
OA群	7	27	9 (少)		部分的に悪質	麻醉銃・猟銃	

個体数調整 Case 1

対象 : OE群
 加害レベル : レベル9
 個体数 : 約50頭
 加害特性 : ①過度な人慣れ・生活被害甚大
 ②群れ全体が悪質
 ③各種被害対策の効果なし
 市の対応 : 特定計画に従い地域実施計画を策定、県から捕獲許可を受ける
 個体数調整 : 大型捕獲柵によって段階的な全体捕獲を実施
 捕獲効果 : 被害沈静化
 事後対応 : 隣接群が空白となった行動圏内へ進入する傾向が見られ、追い払い等の対策で進入防止




個体数調整 Case 2

対象 : KA群
 加害レベル : レベル8
 個体数 : 260頭
 加害特性 : ①極端に大きな群れサイズ
 ②群れ全体が悪質
 ③追い払い等の被害対策の効果が現れにくい
 市の対応 : 特定計画に従い地域実施計画を策定、県から捕獲許可を受ける
 個体数調整 : 大型捕獲柵によって部分捕獲を実施
 捕獲効果 : ①被害は約55%減少
 ②群れサイズの縮小で被害対策が容易に
 事後対応 : ①数は減少したものの加害レベルに変化がなく、隣接群の被害拡大もあり被害対策を継続
 ②当該群の全体捕獲を検討中
 ③隣接群の個体数調整を実施中



個体数調整 Case 3

対象 : KC群
 加害レベル : レベル9
 個体数 : 79頭
 加害特性 : ①農作物に慢性的な被害
 ②群れの一部が悪質個体
 市の対応 : 特定計画に従い地域実施計画を策定、県から捕獲許可を受ける
 個体数調整 : 銃器（麻醉銃）によって悪質個体を選択的に捕獲する部分捕獲を実施
 捕獲効果 : ①被害は約75%減少
 ②群れ特性が変化し、加害性レベルが低下
 事後対応 : 被害対策を継続実施し、モニタリングにより経過観察中

サル個体数管理の課題

-  **捕獲計画は必須**
 無計画な捕獲は、成果も、効果も、課題もわからない
 捕獲は公共事業であり、適正な計画のもと実施されるべき
-  **予算と労力**
 多頭捕獲は他の鳥獣と比べ比較的容易だが、簡単ではない
 補助事業の拡充や捕獲従事者の確保が必要
-  **技術・技能**
 単に大型捕獲柵を作っても期待される成果がないばかりか、群れの分裂・分散によって対策が煩雑化するおそれもある
 適切な捕獲管理に向け専門性のある実務者の育成が必要

サル個体数管理の課題（つづき）

-  **方法論の検討**
 効率的な個体数管理のためのモニタリング方法や捕獲方法の開発、実証試験が必要
-  **被害管理・生息地管理の推進**
 他の鳥獣同様、個体数管理により被害をゼロにすることは困難
 被害管理・生息地管理とのバランスを図りながら効率的に被害軽減すべき